3月31日（月）

シェーンブルン宮殿

グロリエッテからの宮殿の眺望

17 世紀末に、皇帝レオポルト1世がベルサイユ宮殿をしのぐ宮殿作りを計画したのがはじまりである。そのためフランスのベルサイユ宮殿をモチーフにしたシンメトリーな建物になっている。庭園も幾何学的なフランス庭園である。自然美を重視するイギリス庭園とは対照的な外観となっている。

オーストリア女帝のマリア=テレジアに好まれた宮殿として名高く、その建物の色はテレジアン=イエローとも呼ばれ、彼女のシンボルカラーになっている。女帝の時代に宮殿は大幅に改装され（1743年）、整備された。しかし、フランツ=ヨーゼフ帝の妃エリーザベトはこの宮殿を嫌い、郊外のラクセンブルク宮殿を利用していた。

シェーンブルンに置かれる石像は、元は海底だったアルプスの石を切り出して加工されたため、石灰分を多く含むアルカリ性である。そのため、雨が降ると酸性雨によって像が解けてしまう。この現象はクラクフの像が取り上げられるが、シェーンブルンも例外ではない。

また、冬は凍結により割れるおそれがあるため、像にカバーをかけて保護している。

正門側から眺めた、夜のシェーンブルン宮殿。同宮殿と庭園群は、1996 年に世界遺産に登録されている。

夜のグロリエッテ

宮殿の南側に広がる庭園の先、高台に置かれたモニュメント。ここからの宮殿の眺望がすばらしい。

敷地内にある温室

1882 年に完成した。当時、神秘的で未知の地とされていた熱帯地域の植物が数多く集められている。